

渡辺家住宅

渡辺家住宅は銀山町内で唯一残っている武士の住居で、江戸時代（1603～1867年）には銀山の堀で中心部とは区切られたエリア内に位置していました。2002年に国指定史跡に指定された時の持ち主の名前から命名された住宅は、1811年に坂本家のために建てられました。坂本家は銀山の経営に携わった中級役人で、坂本家の祖、清左衛門は1604年に江戸時代に石見銀山の直接的な統括を行った銀山奉行によって召し抱えられました。その役職は子孫によって受け継がれ、子孫の中には銀山経営を行った者たちもいました。坂本家の住居には、力強く立派な門と堀、家と外の通りを隔てる庭、2か所にある入口など、武士の居宅として典型的な特徴が多く備わっています。二つの入口のうち、左の小さいほうは住人用、右側の大きいほうは畳敷きの二間に続くもので、特別な時にのみ開けられました。この入口は奉行や位の高い役人など重要な客人を迎えるためのものだったのです。母屋の裏には2階建ての蔵とモダンな建物があります。渡辺家住宅は不定期で一般公開されています。